

11月3日(土)

「海洋バイオニアスクールプログラム3校連携の『森里海連環学』森の学習会」

津和野高校が主幹されている「森里海連環学」の第3回目で、**今回が最終回の森の学習会へ参加しました。**4月に海、8月に川の学習会が行われましたが、今回は森の学習会です。本校、津和野高校、吉賀高校の3校よりおよそ20名の生徒が参加しました。朝、安蔵寺山の登山道入り口より登山道、そして藪へと入り、ブナやミズナラの夏緑樹林に触れ、紅葉の仕組みや自然林の豊かさを学びました。昼は、シシ汁を振る舞って頂きました。キノコ採集では、講師の先生から解説をして頂きながら、実物と図鑑を見比べながら学ぶこともできました。本校からは、自然科学部の1名と校内の希望者1名の合計2名が参加しました。高津川流域の生態系の豊かさと森川海の関連性を学んだようでした。模擬試験と重複する中、参加した価値は十分にあったようです。

2年生山根進太郎君

今回の連環学の森での学習は、1年生で学んだ「バイオーム」の単元の事項が多く関わりました。人工林でのスギやヒノキの学習、ミズナラなどの夏緑樹林を実際に見て山林の成り立ちを学ぶことができました。また、山の斜面の方角により、紅葉や黄葉になることも学びました。植林の場合の留意点や苗木の管理なども質問することができて細かな部分まで丁寧に教えて頂きました。

登山により採集したキノコでは、集合場所でひろげて、一つずつ特徴を教わりながら同定しました。中には初めて目にするキノコもありましたが、キノコ図鑑を片手に実物と見比べながら学ぶことができました。この経験から、将来の進路の方向性を見定めることもできました。

1年生佐々木廉君

今回が3回目の参加でした。海、川に引き続き森の関連を学ぶことができました。これまで、木の葉が赤色や黄色になるのが当たり前で、その理由を考えたことがありませんでした。紅葉の仕組みを丁寧に教えて頂き、当たり前と思っていたことに疑問を持つ大切さも学びました。また、夏緑樹林の代表種であるブナとミズナラを直接眺めながら特徴を学ぶことができました。また、キノコ学習では、腐食途中の倒木を好んで生育することも知りました。今回の学習では、成熟したキノコが多く、キノコの成長過程も学習できました。また、ニガクリタケなど日頃は目にする事のない毒キノコも実物を見ながら学ぶことができました。

今回の学習会により、島根県の森が豊かであることを知りました。3回の現地学習で高津川流域の自然を関連づけて学ぶことができました。来年も是非参加してさらに理解を深めたいと思いました。

